

令和4年度が始まり4か月が経過しましたが、今年度2件の事故が発生しています。6月28日の賠償事故（2件目）で**連続32日間無事故**の記録が停止しました。仕切り直して、現在**連続30日間無事故更新中**です。無事故の期間を長く維持できるよう、すべての会員の皆様が常に安全に対する意識を持って就業に取り組みましょう。

現在のところ、今年度の事故件数は傷害事故1件、賠償事故1件です。

連続無事故記録



現在 30日

1件目：令和4年5月26日発生（傷害事故）

事故内容：スーパーでの検品作業中に空き箱と台車の間に指を挟み骨折をした。

事故原因：大丈夫だと思い注意を怠ってしまった。

再発防止策：作業中は、注意を怠ることなく作業に集中する。

2件目：令和4年6月28日発生（賠償事故）

事故内容：刈払機での除草作業中に小石が飛んで、付近を走行していた車両1台のサイドガラスを割るとともに、付近に停車していた車両のサイドボディーを損傷してしまった。

事故原因：作業中の安全対策を怠たり、付近の車両に注意を払わなかった。

再発防止策：飛散防護カバーの使用など安全対策を講じる。

「もし、人身事故だったら……」 「安全」は全てに優先する！

上記の2件目の事故では、サイドガラスの交換とボディーの板金塗装の経費が50万円程度になりました。

事故の原因は

刈払機の安全装置は、飛散防護カバー、緊急離脱装置、停止スイッチなどがあります。

しかし、飛散防護カバーを外したまま刈払作業を行う作業者が多く、事故を招く原因となっています。これは、刈った雑草がパイプとカバーの間に挟まり、取り除く手間が増えることを嫌がるためです。しかし、ちょっとした手間を惜しんで事故をおこしてしまっは何にもなりません。

安全対策の徹底を

今回は物損事故ですみましたが、人身事故をおこすようなことがあっては絶対なりません。

安全は全てのこと優先します。飛散防護カバーの装着など安全対策を施して作業をするようにしましょう。

また、飛来物から目を守るため保護めがねやマスクを使用しなければなりません。

しかし、暑い夏の作業では、保護めがねやマスクを使用しないで作業をしているケースがあります。周囲の安全はもとより自分自身の安全のためにも、作業をする際は必ず保護具を正しく装着するようにしましょう。

○今年の夏は猛暑予想が出ています。 熱中症に気を付けて、熱い夏を乗り切ろう！

6月30日（木）、気象庁は7月2日から8月1日までの1か月予報を発表しました。

7月中旬以降は夏の高気圧が勢力を広げ、夏空の広がる日が多くなる見込みです。気温は平年よりも高く暑さの厳しい夏が予想されるとのことです。

このため、特に熱中症の予防と対策が必要です。

いつでもどこでもだれでも条件次第で熱中症にかかる危険性がありますが、予防法を知り普段から気をつけることで熱中症は防ぐことができます。

例えば、初夏や梅雨明け、夏休み明けなど、体が暑さに慣れていない時は特に危険です。無理をしないで、徐々に体を慣らすようにしましょう。

熱中症予防と対策は？

- 1 「水分を」こまめにとろう
- 2 「塩分を」ほどよく取ろう
- 3 「睡眠環境を」快適に保とう



○蜂の刺傷事故を防ぐために！

夏から秋にかけて蜂刺され事故が発生し、蜂毒アレルギーによる死亡事故も発生します。

人を刺す蜂は、主にスズメバチとアシナガバチです。

蜂は外敵から巣や身を守るために攻撃します。人が刺激しない限り、むやみに刺しません。蜂に刺されることがないように、行動や服装に注意しましょう。

万-にそなえて

- 1 蜂は甘い匂いや黒い色に敏感に反応し攻撃する習性があるため、香水、整髪料やジュース類、黒い色の衣服は避け、明るい色（例えば白、明るい緑色など）の服装にする。黒い色は特に危険です。
- 2 長そで、長ズボン、手袋を着用して肌の露出を避ける。
- 3 植木の剪定などの作業は、周囲を長い棒などで軽く叩くなどして蜂がいなかきしっかり確認をしたうえで、作業を行うようにしましょう。
- 4 蜂は明るい方向へ向かう性質があるので、室内に入ってきたら明るい側の窓を開けて出ていくのを待ちましょう。

蜂に刺されたときは

- 1 蜂の毒針を取り除き、水でよく洗い流して冷やす。（蜂の毒は水溶性）
- 2 局所の腫脹のみであれば、患部に抗ヒスタミン軟膏やステロイド軟膏を塗る。（アンモニアには中和作用はない）
- 3 嘔吐、悪寒といった症状、呼吸困難や意識障害などのショック症状が出たときは、すぐに病院を受診しましょう。